

「ボーナスカット裁判に勝利しよう！」 #16

うそデタラメおそまつ

ボーナスカット裁判第6回口頭弁論 渡辺助役証人審問

10月19日の第6回公判は、会社側証人・渡辺幸一助役と、原告の成田委員長に対する主尋問・反対尋問が行われました。

誰もが注目する渡辺助役への反対尋問は、原告の成田委員長自らが行いました。渡辺助役は、質問に対して見当外れの回答を繰り返し、傍聴席からは何度も失笑がもれ、とうとう裁判長が「質問にきちんと答えるように」と注意指導をする一幕もありました。

また渡辺助役は、不断は偉そうに社員に注意指導を行っているくせに、『東仕両三大ヒューマンエラー』を正確に言えなかったり、作業の手順を最後まで言えないなど、おそまつな知識しかないことをさらけ出しました。

誤った指導はしない？「(私は)間違わない」！？

さらに成田委員長は、「渡辺助役は間違った指導をしたことはないか？」と質問すると「ない」「(私は)間違わない」と言い切りました。しかし、間違った喚呼や手順を指導したことをいくつも具体的にあげて問いただすと、渡辺助役は焦った表情で「記憶にない」を繰り返すことで精一杯でした。

渡辺助役は成田委員長に対する注意指導は正確？に陳述書で事細かく明らかにしているのに、自分の間違った指導はすべて忘れてしまっているのです！？

また、渡辺助役は、小俣元所長からの「管理者への指導が全くされていない」、「背面点検」は「管理者が意思統一してやっていない」と、はっきり証言しました。小俣元所長の陳述書もデタラメだったのです。

渡辺助役の数々の証言で、いかにでたらめでいい加減な「注意指導」でボーナスカットがやられているのかが明白になりました。



汗だくの渡辺証人

ボーナスカット粉碎めざして、さらに職場と法廷で闘いましょう！